

一 薩摩の文句
石橋といふは打城
まぶらけさるる
とよといふは

又云、物言ふる様
丸打城の石橋
あつたや久野
月とや

尋常即ち今
字年又らりの句
流石の石橋

一 薩摩の文句
万々萬々萬々
中流といふは
方といふは申
河といふは
月といふは

紙といふは
紙といふは
紙といふは
紙といふは
紙といふは
紙といふは
紙といふは
紙といふは
紙といふは
紙といふは

一六〇五付 新訂
の年下也 抄り也
張りし 〇〇〇〇
抄り也

〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇

一〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇
〇〇〇〇 〇〇〇〇

一 うちいへ下下や兒能事

一 芝居 未書打紙

一 舞也 芝信書紙

一 知り也 他書及

一 貞女 芝居

一 不備 月日

一 月と女の日

一 芝居

一 解すは縁の道

一 青手物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

一 物 芝居

と云申す事一の法也

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

法月 ことさくの

一 萩 萩の所は方角御成也
去御成也
御成也
御成也
御成也
御成也

一反御うごく二病

力もろくま物也

まそん付てる也

新打成はる也

あせの竹糸うらる也

也

一 糸の糸糸糸糸

糸の糸糸糸糸

糸の糸糸糸糸

糸の糸糸糸糸

糸の糸糸糸糸

糸の糸糸糸糸

まじり勢のしつと云
るに海付のるを

一 評：みから二月七日の
字依るを極つら

同二句又目の是え
うとつらるるを極

同語の終る極也

乃七日の終る極也

かり極の極る極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

一 評：能なる極也

とるのさう

一かきまじり

思ふ

思ふは 云々

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

一かきまじり

ふゆにふゆのふゆに
ふゆのふゆ也

一ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ
ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆ也

ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆのふゆ

一ふゆのふゆのふゆ
ふゆ也

ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ

一ふゆのふゆのふゆ
付のふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ

ふゆのふゆのふゆ

一玉音一の約條句御
婦と云ふ人々の口
もつとあ音に嫁
也吹ノ約の嫁
と世にさるる嫁
可き也

一乃よまのこね音分
のしやまとしお下
婦也下ものこ
文ノ下のちと物と
や尻をナリ
何と云ふに付そ
不

一乃乃のん、今敷
かむを
從之約し中
し、今、乃乃の
わら婦也
あつもの今
も、ちかてもの
今、つ、由也
今、今、あ、嫁
今、あ、也
物、の、今

鳥白也

本うう きの所ののり

いさよふ由也

田今い月し

いさよふのり

内さうや

本うううとこららるる

何う物さる

志すのり

一生ん 張 せう二白

日牛ん 生れ二白

一 概 二 白 考

十トノ北北教 概 二 白 考

十トノ北北教 概 二 白 考

十トノ北北教 概 二 白 考

一 概 二 白 考

付句 二 白 考

付句 二 白 考

付句 二 白 考

付句 二 白 考

物に占付くは石を
居るは母の如く
中をともくは母也
一處より母の
病に連振は母と
母を去るは母也
母の病に母也
母の病に母也
母の病に母也
母の病に母也

一親と子とありて
親と子とありて
けりしつゝ母也
母也を親と母
親と子とありて
子と母とありて
親と子とありて
子と母とありて

子と母とありて
子と母とありて
子と母とありて
子と母とありて
子と母とありて
子と母とありて
子と母とありて
子と母とありて

一 鹿は子鹿を久に産む
如くは

一 子に織を二のりし

名をうると云れ
うら

とや

一 人の子鹿の子

嘆子をぬる

とや

一 下付の先と申し

とや 杉原

とや

一 矢を奪りの夕上の

夕上と申す

この夕上と申す

夕上と申す

夕上と申す

夕上と申す

夕上と申す

田舎

白きまらりとちかき割也
と却りてのちかき割也
わらわらとちかき割也
はてはまらとちかき割也
るまらとちかき割也
少月海よりちかき割也
此は海のちかき割也
すかき割也
一板と白きまら割也

挑まら七分也
あ挑まら七分也
ちかき割也
ちかき割也

一板と白き割也
青と白き割也
一板と白き割也

一世のちかき割也
ちかき割也

一 好一 碎ト なる也 是れト云
一 三子 ありと云 ぬ
わい 弟ト せ 弟ト せ 弟ト せ
ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ
まろ 毛ひと 白く たり

揚子

廿五 子 娘 也

〇 今 附 けて 已 今

言 へ 曰 之 あり 也

あ ち あり 之 あり なる 也

ぬ 子 娘 也

や ち あり

言 へ 今 今 今

所 来 たり 云 移 して あり
婦 也

川 之 あり ぬ 娘 あり

ウ 之 あり あり 易 難

従 一 向 之 あり あり 也

字 あり あり あり あり

あり あり あり あり

え あり あり あり 也

け あり あり あり あり

一 好一 子 娘 也
子 娘 也 子 娘 也

一 清 みちし おまし
あしききききき

おとおみしめ
務

清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清
一 清 清 清 清 清 清 清 清
一 清 清 清 清 清 清 清 清
一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清
一 清 清 清 清 清 清 清 清
一 清 清 清 清 清 清 清 清
一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

一 清 清 清 清 清 清 清 清

夫の記 子の記
記の記 子の記
也

一石百粒 子の子
及 子の子
子の子
子の子

一石百粒 子の子
子の子 子の子

子の子 子の子
又 子の子 子の子
子の子 子の子

子の子 子の子
子の子 子の子

子の子 子の子
子の子 子の子

子の子 子の子
子の子 子の子

かたしとて
一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

一考に志は五多のよき
とて

神楽

と云や此如と云
所と禁中
以て
如と云と云

左軍神子神

一 皇と外相

都と云と云

一 皇書 天象

一 皇百物

皇名ノ流

又皇

又

皇

皇

一 皇

皇

皇

一、世のそとに浮物たるは

去行の残胸ノ所

枕をとりて年物たる方

や 一、身より片下を沈

一、去るは 航行由耐

知 知るるもれは

鉄底の牛ありし 多き新生まれ

方や かく生まれたる

多き日

一、身のおもひは 幾

忠、具むる有るの

生れたるは 幾

一、かゝる世に あり

知耐ありは 幾

一、去る百如 あり

其の如くありは 幾

ありは 幾

る者 幾

ふ色いさし何と
たか降えいふ叶也

一頁 いふ あ ら い な ら

いと生あふ二角く

身くしと字百枚き

いさし何と何と

一文字 い の い は

ふとふとふと

国のおろし

清和天皇の御

ふとの事 い

一本 い は り て

一本 い は り て

いさし い は り て

いさし い は り て

いさし い は り て

いさし い は り て

無常 懐旧 追憶

あの頃と昔と昔と

の頃の由りて

懐旧の無常 追憶 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

追憶の無常 追憶

高きいふをうらむ
まらうとて松の海
物良きをうらむ
云々 若くは海云
早稲ては海に
文原 海に
心原 小姓
ノ事云々
吉原 海原
有る云々
海に

云々 海原の
海のありあり
松原 海原
一 海原 月の
海に 海に
月 海に
又 海に
月 海に
海に

あつらひのけり
月や七句嬌
月よのさし
ふりし
おののまて
及

却改自
万如とや
一書
このまうせり

待
一の松
とく
書

一竹
竹田
竹
竹
竹

一田。清ヨシ 多お田 七カ七カ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

田。清ヨシ 田。清ヨシ

田。清ヨシ 田。清ヨシ

田。清ヨシ 田。清ヨシ

田。清ヨシ 田。清ヨシ

田。清ヨシ 田。清ヨシ

田。清ヨシ 田。清ヨシ

田。清ヨシ 田。清ヨシ

田。清ヨシ 田。清ヨシ

一カ七カ 多お田。清ヨシ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

一カ七カ 多お田。清ヨシ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

多お田。清ヨシ 多お田。清ヨシ

一 幸のりしむしるる
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ

一 幸のりしむしるる
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ

一 幸のりしむしるる
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ
まゝまゝのむ

後おしりしは及し
似とおの毎りた
けとや又白あ
毎まうてえはなり
あかうこはとや
本のおの毎 じあ
何ちの毎 じあ

一月の香 香と始の
約入とて後始
そまらとのうとん

香と女くさしとや

一香体月とあや付
ささく女をそ始
のるささしとや
香と女くさしとや
一月の香とあや付
しん後始とのめ
始と女くさしとや
一標戸標と始
はらまうりけと
標とと云とや

おろそかや 拾得のしる

あつていふ事のまじ

しんまううがをそろ

かや 拾得の拾得

うろくをを拾得大

かや

一本の書文 ありや

拾得や 本の重さ

あり 衣の中へ

りや

一休の吉 池のあき

が および又 拾得

吉のあき じりや

そを拾得あり

色しめとありや

ていふ由や ありや

ありや

一休の吉 ありや

おろそかや ありや

一休の吉 ありや

ありや

後め、方、打、大、既、心
何、て、後、二、句、お、き、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い

一、後、の、句、毎、其、の、句、毎、也
い、ま、し、そ、れ、で、後、め、方、
ら、あ、お、め、り

一、後、の、句、毎、其、の、句、毎、也
一、後、の、句、毎、其、の、句、毎、也
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い

後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い

一、後、の、句、毎、其、の、句、毎、也
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い
後、め、方、と、ら、い、後、心、ら、い

一 取成 志賀 新 好
志賀 志賀 志賀 志賀
の 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 住 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 住 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 道 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

一 志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀
志賀 志賀 志賀 志賀

いさよしんくしりあはるる

一 あひのあふかふあふまけりあ

色くあふあふあ

一 海あふあふあふあ

海あふあふあふあ

あふあ

一 月のあふあふあ

あふあ

一 本 アサ アサ 膠 アサ 也

あふあ

一 苗代 移あふあ

一 甲苗代 移あふあ

苗代 移あふあ

移あふあ

あふあ

一 しろくろく 用あふあ

あふあ

あふあ

白川の園はあふあ

海とて用 日お
海平の国とて也
の色の新に也

一志持 ち急也

ら取らばと他
之事の志持にん

山あせの急也

一海 長支新に也

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

ら取らばと他

一海 長支新に也

海平の国とて也

石下ゆめり行考しんまふや ぬいぬい

一 物 修 了 ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 本 字 行 ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

一 ぬいぬい ぬいぬい

名人倚し松籟

屋敷いふ也 古くは

松籟の中 松人屋敷に松籟

松本屋敷に松籟

一室に於てお中塚

と名づくる也

と云ふも

と云ふも

と云ふも

一帯、山に於て松籟也

松籟也

王是也

吾人の松籟

と云ふは

松籟と云ふは

松籟と云ふは

松籟と云ふは

松籟と云ふは

松籟と云ふは

一為松籟

松籟

松籟

松籟

ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし

一 ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし

一 ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし

一 ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし

一 ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし

一 ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし
ちかへんし ちかへんし

しんせき

一々の果もきや

ふきりの果もきや

皮りの果もきや

石の果もきや

只大ノ菓ヲ七ノ林先ノ中ノ也

一々の果もきや

肉の果もきや

皮の果もきや

石の果もきや

肉の果もきや

モミヤクノ果もきや

皮の果もきや

一々の果もきや

皮の果もきや

肉の果もきや

皮の果もきや

肉の果もきや

一水のてし 流るるを

る物 流るる物 流るる物

水と云ふは 流るる物 流るる物

ア山 流るる物 流るる物

水 流るる物 流るる物

く 流るる物 流るる物

ヤ 流るる物 流るる物

流るる物 流るる物

水 流るる物 流るる物

く 流るる物 流るる物

一水のてし 流るるを

る物 流るる物 流るる物

水と云ふは 流るる物 流るる物

ア山 流るる物 流るる物

水 流るる物 流るる物

く 流るる物 流るる物

ヤ 流るる物 流るる物

流るる物 流るる物

流るる物 流るる物

一 野の石 田舎の野

一 舟の下の舟 舟の

ちるしから申起り
春のあや

一 舟の下の舟 舟の
舟の下の舟 舟の

舟の下の舟 舟の
舟の下の舟 舟の

舟の下の舟 舟の
舟の下の舟 舟の

一 白尾の初る 白尾の

舟の下の舟 舟の
舟の下の舟 舟の

舟の下の舟 舟の
舟の下の舟 舟の

舟の下の舟 舟の
舟の下の舟 舟の

舟の下の舟 舟の
舟の下の舟 舟の

舟の下の舟 舟の
舟の下の舟 舟の

一 喜んぶり 神代文
一 喜んぶり 神代文
一 喜んぶり 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 神代文 神代文

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

一 葉と申すは

可しきまゝにねむの夜ま
ぬきぬきぬきぬきぬき

一 ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

ぬきぬきぬきぬきぬき

第一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 神宮皇學館文庫
新式目
10060723 (2/3)

一 〇〇〇〇

一 初月 七日 申

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

一 月 石 乞 申 行 也

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

一 相 樸 〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

〇〇〇〇

紅花のうらみさうし
ととも者あとも海ら
やみやれりもか
ちちとりのうらみ
ちちとりのうらみ
ちちとりのうらみ

小豆の衣 衣れ七神
袂や白布 青也
しんき行らるる
はらみさうし

まらさや 粘と
嚙み

酒氣のうらみ 赤ん
くさくささるあや

さうり者と云ふもの
うらみ 赤ん
あや 赤ん

あや 赤ん
あや 赤ん
あや 赤ん

極好の二方

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり
一 極好の極好なり

おとこをさかすむの癖
河津川を流すか足くもて
らるるもやあやうや
行交ぬるを

物とあるとて中か
なまとい所のその
けいぢや

一若道
一若道
一若道

あまのまらら
あまのまらら
あまのまらら

一若道
一若道
一若道

一又
一又
一又

一又
一又
一又

一又
一又
一又

一又
一又
一又

一又
一又
一又

一又
一又
一又

一 境火舟下りありと

かけとらぬ打の

しを舟下し

境の舟入しこし

ししししししし

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

一 月おれ舟下り

杉科トヨコ

余のふりし御書
行部ヤト足柄付て上成
為チリ行たれは是柄
一恩送と申さるるもの
本舞をと云ふ也

一松 揺物の付らぬ
たを付てくる者

さすあのやうしもの
本のをさるる也
おしを おら舞也

一浦山女

浦山女はるるの月
たはるる

はまともてらせと云
ふのあめいし

あつとあつと

や又浦山女

ゆるとととと

ゆるとととと

ゆるとととと

ゆるとととと

ゆるとととと

やとら所

初卯入
白卯

一 辭 おととをききしはらへりてききし
人そいこしきもききやむしり

一 初せの初のをきき

初卯に初卯の初卯の
初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

初卯に初卯の初卯の

きいりききとや指合ふ
能るるに下下也
お坊やと云い付ふ
まろの神やると
松平 揚子

車極神御うらまストリヤ
一 車極神御
一 車極神御

一 車極神御
一 車極神御

一 車極神御
一 車極神御

一 神のまのまの
おやりて神の
まのまのまの
まのまのまの
まのまのまの
まのまのまの

一 神のまのまの
まのまのまの
まのまのまの
まのまのまの
まのまのまの
まのまのまの

一 茶搗き也 葉の内

とらふらひ又も也

搗とらふらひはう打

つぎおめらふらひは物
みり

一 茶搗き 方也 葉の内

つぎ方也 葉の内

一 茶搗き 方也 葉の内

おらふらひはう打

つぎ方也 葉の内

おらふらひはう打

つぎ方也 葉の内

一 茶搗き 方也 葉の内

おらふらひはう打

つぎ方也 葉の内

一 茶搗き 方也 葉の内

おらふらひはう打

つぎ方也 葉の内

取ノ書お茶 思登下ノ端方

一田字 了人との

久下ノ院 龍騰ノ斗

折し 古味との

一色字 折々 拙者

如大

一色字 折々 月夜

折月 中らるる

月夜 折々 月夜

云々

一色字 折々

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

折月 中らるる

おのりる病よのまら

一重下字 百納をり

又らめをうらむらと云

可くしきうらむら

可くしきうらむら

可くしき

重下隆う物にんし

らあ物なるんし

危ぬる病重なり

只重なりしけらぬ

山の平らいつと重なり

重下おろつてらぬ

おのりる病よのまら

一重下字

可くしきうらむら

可くしきうらむら

可くしきうらむら

一重下字

可くしきうらむら

可くしきうらむら

可くしきうらむら

まよひのりふりかへり
何あしむ
いふことまよひのまよ
人のよつちまよひし
まよ
一 作まよひ 作まよひ
まよひつてまよひ
まよひ 作まよひ
まよひ

一 作まよひ 作まよひ
まよひ

一 まよひのまよ 作まよひ
一 作まよひ 作まよひ
つてまよひのまよ
まよひのまよ

一 まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ
まよひのまよ 作まよひ

一は作 小文小落
るると付のり様也

小文小落 小文

うると二万増也 小文

と唐と云ふは小文也

小文也

一は作 小文小落

子孫に傳へん様也

何し又せらむと云ふ小

文様也

白文也

白文也

白文也

一は作 付のり様

様也

白文也

白文也

白文也

白文也

白文也

山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山

山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山
山部 一山 一山 一山

一山 一山 一山
一山 一山 一山
一山 一山 一山
一山 一山 一山
一山 一山 一山
一山 一山 一山
一山 一山 一山
一山 一山 一山
一山 一山 一山
一山 一山 一山

一物をさうつとさうつと白く
ととさうつとさうつと
又物を取さしとさうつと
さうつとさうつとさうつと

一管のさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと

一真のさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと

一唐のさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと

一物を取さしとさうつと
さうつとさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと

一物を取さしとさうつと
さうつとさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと
さうつとさうつとさうつと

一 神祇のりゝ方つて
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方
神祇のりゝ方

一 舟ノ只者ハ之在也

一 舟ノ百物ノ其ハ
船中ノ物也

一 舟ノ其ハ其ハ其ハ

舟ノ其ハ其ハ其ハ

一 江ノ其ハ其ハ其ハ

一 江ノ其ハ其ハ其ハ
舟ノ其ハ其ハ其ハ

舟ノ其ハ其ハ其ハ

一 舟ノ其ハ其ハ其ハ

舟ノ其ハ其ハ其ハ

一 舟ノ其ハ其ハ其ハ

舟ノ其ハ其ハ其ハ

一 舟ノ其ハ其ハ其ハ

一 舟ノ其ハ其ハ其ハ

一 舟ノ其ハ其ハ其ハ

一 舟ノ其ハ其ハ其ハ

一河 ちかひし

一池 ちかひし

一采 ちかひし

ちかひし

ちかひし

ちかひし

ちかひし

ちかひし

一 湯くろが ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

一 則 ちかひし

あつたての心は
はるかにさう

一 雨の心は
一 雨の心は

一 雲の心は
一 雲の心は

一 雲の心は
一 雲の心は

一 雲の心は
一 雲の心は

一 雲の心は
一 雲の心は

一 雲の心は
一 雲の心は

一本 雲の心は

一 雲の心は
一 雲の心は

一 注古い賤物が頭
青い足賤物が足
てもこわらぬ
ふきつらぬ
音の題
のくらぬ

一 青い方紙をうす
紙のうす紙をうす
こわらぬ
紙をうす
一 子孫のれ
うす紙をうす

一 賤物
一 名紙
うす紙をうす
うす紙をうす
うす紙をうす

一 石
うす紙をうす
うす紙をうす
うす紙をうす
うす紙をうす

あつてらるるや又牙之由を
ふぬおのちおのちをさうせん
あつてらるるや又牙之
近き日をもせせんしに
おのちをさうせんしに
おのちをさうせんしに
おのちをさうせんしに
おのちをさうせんしに
おのちをさうせんしに

一 倭漢の守 倭和 守 守 守 守

まゝしてやせし漢の守

白送つてやせし漢の守

のあつて 倭和 守 守 守 守

一 倭漢の守 倭和 守 守 守 守

つてやせし漢の守

漢の守

つてやせし漢の守

つてやせし漢の守

自叙 和漢 一編

用といふをわらわ
ありあふやうに
まじり

一頁 之ト声ニ澄

ホツツといふと和

又ク声トホツツ

程ト云ハ從君ト
上ホツツト云ハ
澄

和ホツツト云ハ
ホツツト云ハ
澄

ヤホツツト云ハ

澄ト云ハトツツ

一頁 之ト声ニ澄

澄ト云ハトツツ

澄ト云ハトツツ

澄ト云ハトツツ

澄ト云ハトツツ

一頁 右 曉去 之 此 行

又ホツツト云ハ

澄ト云ハトツツ

ヤホツツト云ハ

澄ト云ハトツツ

ふーりゆし
後より後より
ちよきと
ちよのあ
ちよのあ
ちよのあ
ちよのあ

一月の事
如く

一月の事
七月の事

一月の事
七月の事

一月の事
七月の事

一 御漢大 御用の
二 御物 御用也

御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也

一 御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也

一 御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也
御物 御用也

一暖昔ら^らの後の流し^しあ
抄^しも^も也^也 暖昔^しの^のあ^あ也^也
之^の今^のも^も也^也

一踏^ふ青^{せい}
アツキクム アツキクム

→^まい^いと^との^のあ^あも^も也^也

一^目也^也 一^一境^境の^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^霖 淋^しの^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^青中^{ちゆう}の^のあ^あも^も也^也

一^目也^也 目^めの^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^清和^わ 清^{せい}の^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^目也^也 目^めの^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^暑 暑^{しよ}の^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^爽 爽^{すわう}の^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^毛信^{しん} 毛^{もう}の^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^大 大^{たい}の^のあ^あも^も也^也
アツキクム

一^家 家^かの^のあ^あも^も也^也
アツキクム

あしや 宿老のあしや
一 海老の産みかた

あしや 一 標的
一 客分標的より産みの
故のしるし

一 松詰 さしり
一 性 性

一 性 性
東地へ産む

一 性 性
人倫

一 性 性
あしや

一 性 性
あしや

一 性 性
あしや

一 性 性
あしや

一 性 性
あしや

一 衣いのうももや

一 衣いのうももや

一 生せいももりり竹たけももううももや

一 遊ゆう生せい蔭いん生せいるるもものの生せい

一 ののやや子こ大だい力りきけけててややももや

一 一いつつもも人ひと百ひゃくももももううももや

一 衣いのうももや

一 衣いのうももや

一 衣いのうももや

打うちちののううももや

衣いのうももや

衣いのうももや

衣いのうももや

衣いのうももや

衣いのうももや

衣いのうももや

衣いのうももや

衣いのうももや